

令和6年度自己評価表

鳥取県立鳥取商業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる	今年度の 重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、物事を批判的に考察し、主体的に行動できる力を身につける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動等に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける
-------------------	---	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (2) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、物事を批判的に考察し、何事にも主体的・積極的に取り組み、行動できる人材に育っている	①高い規範意識・人権意識 ②主体的に考え、行動する力 ③安心、充実の学校生活	①(保護者)生徒に挨拶やルール、マナー等、社会に通用する意識や態度が育っている83% ①正しい服装、頭髪・自ら挨拶をしている96% ①②学校行事・生徒会活動・部活動に主体的に取り組み、集団に貢献している95% ②地域との連携件数6件 ③安心して学校生活を送っている97%	①②規範意識が高く、自らが考え、場面に応じた行動ができる(生徒アンケート95%以上) ②地域の産業経済界と連携した活動ができている(連携件数8件) ③安心して学校生活をおくれている(生徒アンケート95%以上)	①生徒による改訂された生徒会自治会規則の検証 ②積極的な地域や企業との交流 ③ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備	①社会・学校のルールを守るように努め、挨拶、正しい服装ができている98% ②地域との連携活動件数8件 ③安心して学校生活を送っている98.2%	A	②社会課題をさらに意識し、積極的な地域や企業との交流を継続 ③困り感を伝えやすい環境づくりのさらなる推進
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現を通じて地域経済の活性化に資する人材に育っている	①体験的活動を通じた職業観、勤労観の醸成 ②体系的・計画的なキャリア教育	①②(3年)就職希望者内定率100% 進学希望者内定率100% ②(3年)進路指導は、生徒一人ひとりの目標実現に役立つように行われていると思う94%	①②1,2年:適切な進路目標を段階的に設定できる(80%以上) ①②3年:就職・進学ともに全ての生徒が進路を実現できる	①②系統だてられた体験的活動や進路学習内容の実施及び改善(フィールドスタディ、進路LHR、進路調べ等) ②進路実現の為に必要な学力向上のための方策の実施(補習、校外模試、公務員セミナー等)	①②1,2年進路志望未決定者1.3% ①進路学習内容の満足度95.6% ②3年就職実現100% 進学実現98%(2月18日現在)	A	①②体験的活動や日々の学校生活を通して社会課題を学び、解決方法について考える機会を作る ②次のステージで求められる力を意識した学力向上の方策を早期より実施
3. 自己の心身を大切にし、学力向上と部活動等に励むことができる人材に育っている	①基本的生活習慣の確立 ②主体的な授業や部活動への取り組み	①朝食を毎日食べている92.7% ①睡眠が足りていない64% ②自宅学習調査1年51分2年48分3年38分 ②3年全商検定1級未取得者10.3% ②部活動が両立できている(前期)66%	①適切な自己管理(十分な睡眠と毎日朝食摂取)(生徒アンケート80%以上) ②家庭学習が習慣化している(1日50分) ②3年全商検定1級未取得者0人 ②学業と部活動の両立ができる(生徒アンケート70%以上)	①保健委員を中心に基本的生活習慣確立への活動の実施 ②家庭学習に主体的に取り組める方策の実施(タブレット端末利用による課題配信、グレード別検定補習等) ②生徒主体の部活動の実践	①朝食を毎日食べている92.7% ①睡眠が足りていない59.8% ②自宅学習調査1年60分2年46分3年29分 ②3年全商検定1級未取得者7.3% ③部活動が両立できている71%	C	①健康課題である睡眠については現状把握をし、保健委員を活用した取組を実施 ②③学年と商業科で連携し、補習や個別指導等の支援を継続 ②タブレット端末による家庭学習支援の効果的な使用方法についての情報収集と実践
4. 地域や世界に関心をもち、持続可能で豊かな社会を想像・創造できる人材に育っている	①修得した知識や技術のビジネス実践力へ活用 ②グローバル感覚、自己表現力、語学力の養成	①(鳥商デパート来客数)約6500人 ①(鳥商デパートお客様意見)「対応がよかった、笑顔が良かった、接客がよかった」 ②国際交流参加延べ人数222人 ②全商英検合格者数1級11人2級47人 ②自分の考えをなかなか効果的に表現できない	①第31回鳥商デパートを生徒が主体的に企画・運営できる(来場者数7000人以上、お客様満足度90%以上) ②自分の考えを効果的に表現(日本語、英語)できる(ニュースレポート等で自分の意見を書いている生徒が70%以上、全商英検1級合格者が10人以上) ②国際交流参加者が50%以上	①商業科目との関連性を確認しながら、鳥商デパートを準備 ②表現力養成のためのインプットと発信力の強化 ②図書やオンラインツール、鳥商手帳を活用して自分の考えをまとめる ②国際交流の機会を積極的に作り、生徒が参加しやすい環境とする	①第31回鳥商デパート入場者数4725人(昨年度比30%減)客単価1994円(昨年度比35%増) ②全商英検1級合格者数11人 ②国際交流参加者数延べ540人	B	①お客様目線での販売を行うため過年度販売データ分析を活用し、実践へとつなげる ②各教科で探究的取組を実施 ②スピーチ月間の実施方法の改善
5. 業務改善の取組	①長時間勤務者の削減 ②校務分掌、任務分担の見直し	①②時間外業務時間の合計が360時間以上の勤務者10名(300時間以上の勤務者5名)	①年間の時間外業務時間の合計が360時間を超える勤務者をなくす。 ②適切な校務分掌、任務分担となっている	①部活動方針の徹底と部活動の月別計画、実績表の活用 ①②研修会や学年会での意見の共有を活用した業務量の適正化	①360時間を超える勤務者数6人(1月現在)	B	①②Google Classroomのさらなる活用による業務の改善 ②欠席連絡システムの導入

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し

[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]